

## (一般質問)

質問日	令和 5年 9月 29日 (金)			質問方式	分割方式		
質問順位	3	会派名	自由民主党浜松	議席番号	16	氏名	小野田 康弘
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 戦没戦災遺家族等援護事業について	<p>空襲や海からの艦砲射撃に見舞われ多くの尊い人命が奪われ焦土化した本市にあって、現在の浜松の発展は、戦争を体験し復興事業を力強く推し進めた市民の努力によるものである。戦後78年が経過し、現代においては、戦争体験者が年々少なくなり遺族の高齢化や遺族会の小規模化などにより人々の心から戦争の記憶が風化しつつある。本市では、平成23年7月に「浜松市平和都市宣言」をしており、また、戦没戦災遺家族等援護事業により戦没戦災死者遺家族、旧軍人軍属等、さきの戦争被害者等の援護を行っている。</p> <p>そこで以下2点伺う。</p> <p>(1) 戦後世代が多く占める中、市内では約80の慰霊碑などの建造物、また遺族会など慰霊祭を各々主催する団体が存在する。平和都市宣言をした本市において、5月に就任した中野市長の戦没戦災遺家族等援護事業に対する思いについて伺う。</p> <p>(2) 今年度より新規事業として戦後世代の語り部育成事業を行っているが、育成後の実践が非常に大切と考える。現在までの研修の状況と研修終了後に予定している出張講話や派遣講話へのアプローチ方法、及び育成後の組織化について伺う。</p>						中野市長  鈴木健康福祉部長
2 令和5年6月2日豪雨について	<p>令和5年6月1日から3日にかけて、本州付近にある梅雨前線に向かって台風第2号からの非常に暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、静岡県幅広い範囲で非常に激しい雨が降り、線状降水帯が断続的に発生するなど記録的な大雨となった。このため、本市では、人的被害や住家等の被害が発生したほか、道路冠水などによる道路の通行止めなど、交通障害やライフラインへの大きな影響があり、南区でも様々な被害が発生した。</p> <p>そこで、今回の豪雨による事象について、以下4点伺う。</p> <p>(1) 南区老間町浸水被害について 6月2日の豪雨では、天竜川下流域で氾濫危険水位に達する見込みから警戒レベル3が発令された。今回の豪雨により長期にわたり広範囲で浸水していたが、被害状況及び今後の対応について伺う。</p> <p>(2) 被災地域の情報収集について 老間町の浸水被害に対して、災害本部及び区本部における被災地域の情報収集の経過はどうであったのか伺</p>						伏木土木部長  石田危機管理監

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>う。</p> <p>(3) 浸水対策による消防団車両退避について 南区支団管内では、豪雨による浸水対策として消防団車両の退避を行った。低所に所在する消防団の分団では、南区若林町にある浜松第41分団まで退避した分団もあり、災害への即時対応に懸念を生じる恐れがある。今回の車両退避による課題や懸念事項について伺う。</p> <p>(4) 浸水対策による車両退避場所の選定について 豪雨災害が多発する中、消防団車両の保全是必要不可欠である。また消防団は、その地域の住民から構成されていることが多く、所在地から遠くへの車両退避は地域を守る消防団としては、機能不全に陥る可能性がある。そこで、所在地から近隣の退避場所の選定が必要と考えるが、今後の方針について伺う。</p>	<p>太田消防長</p> <p>〃</p>
<p>3 これまでの浸水対策と今後について</p>	<p>平成27年9月の台風第18号接近に伴う豪雨により、馬込川水系の高塚川流域では、広範囲にわたり浸水被害が発生したことから、平成29年3月に高塚川流域浸水対策アクションプランが計画された。令和2年2月に計画された浜松市総合雨水対策計画策定に先駆けての取組であり、静岡県が管理する馬込川と本市が管理する高塚川とその流域について、県と市での流域治水という考えで整備してきた。</p> <p>そこで、これまでの整備効果と今後の浸水対策について、以下2点伺う。</p> <p>(1) 高塚川流域浸水対策アクションプランの整備効果について 平成29年3月の計画開始から6年目を迎え、様々なハード対策・ソフト対策に取り組んできたが、その整備効果について伺う。</p> <p>(2) 今後の浸水対策について 現在、浜松市総合雨水対策計画が実施されているが、計画策定後にさらに浸水被害が多発していることにより、計画の見直しを行っていると聞いている。流域治水の観点から、今後の浸水対策の方向性を伺う。</p>	<p>伏木土木部長</p>
<p>4 デジタルを活用した災害対策について</p>	<p>災害発生時に市内の被害状況をSNSから迅速に収集し、災害対応に活用するため、SNS集約システム導入事業が今年度より始まった。近年、線状降水帯の発生が多発し道路冠水や家屋浸水の頻度が増している中、迅速に浸水・冠水情報が発信できれば、2次被害や経済的損失の減少になると思われる。</p> <p>SNSで情報収集する場合、情報の正確性が問われるが、デマ、誤情報は適切に排除されているかなど、現時点における運用はどうであるのか伺う。</p>	<p>石田危機管理監</p>

表 題	質 問 内 容	答 弁 者 の 職 名
5 健幸クラブを活用した健康増進について	<p>本市は、予防・健幸都市「ウエルネスシティ」を実現するため、今年度ウエルネス推進事業本部を新設し、市民の健康増進策を拡充している。ウエルネスプロジェクトの取組として、ヘルスケアアプリ「健幸クラブ」の運用を昨年10月に始め、1年が経過しようとしている。市民の健康増進ツールとしての訴求力が大きく、今後のバージョンアップにより機能追加が期待される。</p> <p>そこで、以下2点伺う。</p> <p>(1) この10月に1周年を迎えるに当たり、健幸クラブの利用状況と取組状況を伺う。</p> <p>(2) 健康機器との連携や、健康管理や健康増進など様々な可能性があるヘルスケアアプリ「健幸クラブ」を、機能追加を含め今後どのように取り組んでいくのか伺う。</p>	藤野ウエルネス推進事業本部長
6 浜名湖花博2024開催に合わせた観光周遊について	<p>浜名湖花博2024は、「人・自然・テクノロジーの架け橋～レイクハマナデジタル田園都市(ガーデンシティ)」をテーマとし、2024年3月に開幕する。</p> <p>浜名湖花博20周年記念事業実行委員会は、集客目標を浜名湖ガーデンパークに最大55万人、はままつフラワーパークに40万人の計95万人としており、開催期間中に多くの観光客が来訪することが期待されている。</p> <p>また、本市と台北市は、2013年に観光交流都市協定を締結し、10周年に当たる本年8月には、多分野で連携を進める友好交流協定を締結した。浜名湖花博2024は、台北市との相互交流を深める絶好のイベントと考える。</p> <p>そこで、以下2点伺う。</p> <p>(1) 観光周遊等の取組について</p> <p>浜名湖花博2024の開催期間中、会場には多くの観光客の来訪が見込まれるが、その観光客を市内全域で取り込むことが重要だと考える。市内での観光周遊を促進するため、どういった取組を進めるのか伺う。</p> <p>(2) 台北市との交流事業について</p> <p>先般、本市は、台北市と友好交流協定を締結し、相互に観光客の訪問促進をしていくことになった。また台北市では、2010年に台北国際花の博覧会が開催されていることから、「浜名湖花博2024」は、友好交流協定調印後の交流事業としてよいチャンスである。</p> <p>そこで、「浜名湖花博2024」の開催に合わせて、どのような交流事業を行っていくのか伺う。</p>	齊田観光・ブランド振興担当部長